

(個別研修) 菊井 妙子

研修テーマ：障害者の高齢化や重度化に伴う包括的アプローチの方法と その中で看護師の果たす役割について

研修先：Children's Wisconsin Corporate Center：Complex Care Program (USA ウィスコンシン州)

研修日：5月15日～5月18日

目的：①Complex Care Program (複合ケアプログラム) について学ぶ

②入院中、及び退院後のフォロー体制について

内容

・Complex Care Program は、複数の慢性疾患により複雑な医学的症状を抱えた子供たちの医療サービス提供と調整をしている。(Children's Hospital of Wisconsin と同じ敷地内にある)登録基準は下記の2項目に当てはまる場合と、0歳～3歳までの早期介入プログラムにも適応している。

① 3つの臓器系に関連する3つ以上の慢性疾患がある

② 過去1年間に5日を超える入院が1回以上、または専門クリニックを最低10回受診した場合

・約750人の患者が登録されており、40人のチームで編成されている。(医師・看護師・コーディネーター、ソーシャルワーカー)

・ウィスコンシン州から補助を受けており、このチームサポートがあるからこそ入院期間が減少し、予後がよくなったというデータも報告しており、どれだけこのサポートが必要か政府に認知してもらっているとのことであった。

・入院中は朝のカンファレンスに担当者が出席し、健康な時には家でどのような生活を送っているか情報共有を行い、退院前などケアプランが変更になる時は病院のチーム、家族、Complex Care チームが話し合える場を提供している。(必要なリソースの確認など)

・24時間電話での対応が可能であり(看護師対応)、子供の体調悪化時などいつでも相談できる体制が取れており、必要時はクリニックへの受診サポート・情報提供まで行い、クリニックでスムーズに処置ができる仕組みになっている。(退院後も安心して生活できる環境作りができていていると感じた)



Complex Care Program チームが入る建物

研修先：Froedtert Hospital (USA ウィスコンシン州)

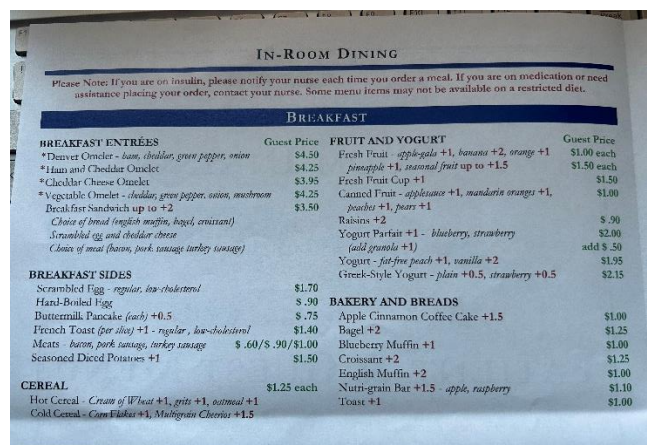
研修日：5月19日

目的：入院中の栄養管理、摂食嚥下機能評価について学ぶ

内容：Robert Davis 臨床栄養士に話を聞く。

- ・食事や流動食の処方では栄養士が行い、何か追加等があれば担当医と相談し決定している。
- ・朝のカンファレンスには栄養士も参加し、そこで食事摂取量・採血結果・状態の確認を行い、看護師・医師・薬剤師などと情報共有を行っている。
- ・栄養のスクリーニングとして、主観的包括的評価 (subjective global assessment :SGA) を用いているとのことであった。(自施設でも使用しており、看護師が評価してカルテに入力している)
- ・体重減少や食事摂取量を確認しながら、栄養士の判断によりプラスでプロテイン入りのアイスやおやつとしてスナック菓子をつけるなど、個人の状況に合わせて対応している。(患者本人に説明し、何が食べやすいか相談して決定する)
- ・入院中の食事メニューは患者本人が決定でき、糖尿病や塩分制限、腎機能障害などがある人も頼むことができる。(宗教上や個人の嗜好に合わせて) また、付き添いの家族も頼むことができる。
- ・嚥下に問題がある場合は、看護師から言語聴覚士にコンサルトを行い嚥下評価が行われる。評価の結果はカルテに入力され、きざみ食やペースト食などの食事の形態も入力される。そして口腔マッサージや口腔ケアなどの嚥下療法は言語聴覚士が行い、再度嚥下評価が行われる。

自施設でも口腔マッサージや口腔ケアなどの嚥下訓練を取り入れ看護師が行っているが、訓練の方法や口腔ケアについてはほぼ同じ訓練方法であった。



患者・家族の食事メニュー表 (一部分を抜粋)